

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：17601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23652119

研究課題名(和文) エスノレクトからみる日本の多言語社会化

研究課題名(英文) Multilingualism in Japanese Society from a view of Ethnolect

研究代表者

藤井 久美子 (FUJII, Kumiko)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：60304044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「エスノレクト」をキーワードとしたものである。欧米などでは、「ethnolect(エスノレクト)」という用語は「immigrant(移民)」という用語と共に研究論文などにおいて多数見られるようになった。国家・地域が多民族化・多様化するのに従い、その存在がより強く意識されるようになってきている。他方、日本社会においては、現在、多言語化が進展しているとはいえ、いまだ、多くの人々が日本語には高い規範性があると考えており、「言語の多様性」を超える「日本語の多様性」を容認することは難しい。しかし、「国語」とイコールではない「日本語」には多様性があることも徐々に認知されつつあることが明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：The key word in this study is "ethnolect". Recently the term "Ethnolect" is seen well with the term "Immigrant" in research papers etc. in Europe and America. In such a society, multilingualization is advanced. On the other hand, Several languages came to be used in the Japanese society, though many people do not doubt a high Japanese canonicity. The diversity is being gradually acknowledged in "Japanese".

研究分野：言語政策

キーワード：エスノレクト 多言語社会 日本語 国語

1. 研究開始当初の背景

近年、多言語化した国家や地域の言語状況を分析するのに「エスノレクト(ethnolect)」という用語を用いた研究を目にすることがある。海外で発表された論考をみると、「エスノレクト」が意味するものは移民の話すホスト社会の主要言語の変種のようなものである。「ようである」と述べた理由は、先行研究でも「エスノレクト」を明確に定義したものはなく、それぞれが状況に応じて適宜「エスノレクト」という用語を用いて、エスニックグループの言語状況やホスト社会の言語意識などを論じているからである。

2. 研究の目的

(1) 多言語状況に対して、エスニシティと言語とを関連させて論じたのは Fishman が最初であろうが、言語の変異という意味では、初期には Lavob や Trudgill の研究によるところが大きい。「ピジン」や「クレオール」の規則性が明らかにされたり、言語変化のメカニズムに対して分析が試みられたりした。その後は、変異に対する理論の構築・確立へ取組が進められている。こうした変異をめぐる研究の中に黒人英語変種の問題があり、ここには本研究への示唆が多く含まれる。まず一つには、黒人英語は一つの言語とみなされるべきなのか、あるいは、英語の変種なのか。次に、黒人英語の存在を前提として、これは中間言語なのか、それとも、変種として完成されたものなのか。そして三点目として、ホスト社会の話者にとって、黒人英語はどのような存在なのか。すなわち、未熟で差別を受けるようなものなのか、あるいは、一つのスタイルとして容認されるのか、あるいは、まったく無視されるものなのか。

こうしたことを、現在、「移民」(本研究では、留学・就労のための一時滞在者を含む)の増加により多言語化する日本社会にあてはめ、黒人英語で考察されてきたような点を、日本語についていくらかでも明らかにできないかと考えた。

本研究を進めるにあたっては、金美善を連携研究者としたが、それは、金がすでに関西の韓国・朝鮮人コミュニティを対象に、日本の「エスノレクト」について先駆的に研究を進めていたからである。

(2) 本研究では、以下の3点を目指すべき目標として掲げた。まずは、先行研究の中でも定義が明確でない「エスノレクト」という用語についてその使用事例を整理し、日本への紹介的役割を果たすというものである。また、「エスノレクト」先進国とも言えるアメリカなどでは、移民の言語を「エスノレクト」として受容し、誤用とは異なる次元で分析する段階に進んでいる。そこで、海外の先行事例の中に日本との対照研究に利用可能なものはないかを探る。さらには、通時的視点からは日本の旧植民地での日本語状況を、共時

的視点からは現在の「移民」のコミュニティごとで異なる日本語状況を考察して、最終的には「エスノレクト」という用語が示す状況が日本社会で成立しうるのかについて明らかにできればと考えた。

「エスノレクト」が日本で広く受容されない理由には、まず、ホスト社会の構成員である日本人の側の多言語化に対する考え方や、日本語に対する強い規範性の欲求が背景にあると考えられる。また、「移民」の側の日本語意識も無関係ではない。「移民」の日本語意識は、母語話者である日本人との関係性に強い影響を受けていることが予想されるので、そうした点についても可能な範囲で明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

研究代表者1名、研究分担者2名、連携研究者1名で、それぞれに役割を分担し、研究を進めていくこととした。

藤井久美子(研究代表者)

カナダ(バンクーバー): 多文化容認型、デンマーク: 移民統合型、それぞれの中国系コミュニティの言語状況について

寺尾智史(研究分担者)

ブラジル(パラナ州・マリンガ)の言語状況、在日日系ブラジル人との関係について

金美善(連携研究者) ... 「エスノレクト」に関する問題提起者

アメリカ(ロサンゼルス)の韓国・朝鮮系コミュニティの言語状況について

安田敏朗(研究分担者)

旧植民地・台湾における日本語教育、日本語使用について

海外調査を通しては、「エスノレクト」とは何かや、「エスノレクト」のある多言語社会とはどのようなものか、を明らかにすることとした。日本社会については、「日本語は『エスノレクト』を含みうるか」を考察するのに、中国系、韓国・朝鮮系、ブラジル系のコミュニティでどのような「日本語」が用いられているのかを調査、検討することとした。

本研究では、共時的視点から現在の「移民」の日本語を研究すると共に、通時的視点からは、そもそも「日本語」とは何かを考察し、日本社会への「エスノレクト」という概念の適用可能性を探ることも目的とした。

4. 研究成果

本研究では、次の2点を取り組むべき課題として設定した。

(1) 海外での「エスノレクト」という用語の使用やその背景にある多言語社会状況について分析を行い、日本への紹介的役割を担う。

(2) 日本における多言語社会の問題をエスノレクトの視点で考察することが可能かどうかを検討を行う。

(1) について

平成 23 年度は、藤井がカナダで、寺尾は南米のボリビアとペルー、欧州のルクセンブルクとオランダで調査を実施した。まず、カナダでの調査では、藤井が中僑互助会 (S.U.C.C.E.S.S.) を訪問し、バンクーバーにおける中国系移民の言語使用について聞き取りを行った。また、プリティッシュ・コロンビア大学では、カナダにおけるエスノレクトに関連する資料収集などを行った。寺尾は、ボリビアでは、主たる調査地であるサンタクルス市では教育局長に、オキナワ村ではケチュア系先住民である村長から話を聞くなど、細かくフィールドワークを回り、聞き取り等を行った。欧州については、ルクセンブルクでは教育省を訪問し、さらに、多言語による放送を行っている民間放送局の局長にインタビューを行った。オランダでは移民向け識字学校の訪問なども実施した。

平成 24 年度は、金が、韓国とアメリカに赴き、外国人の言語的支援状況とその支援を受けている外国人の言語状況について調査した。対象は移住者など、主として長期的に韓国・アメリカに滞在する外国人である。金の調査からは、生活支援の一環として行われている言語支援の状況とこれらの公的支援がいかに当事者に活用されているのか、またはどのような問題点を残しているのかを知るための手掛かりとなる資料が得られた。安田は、近代以降の日本語に対する学問のあり方を問い直す作業を行った。寺尾は、昨年度、南米のボリビアとペルー、欧州のルクセンブルクとオランダで調査した結果をまとめ、博士論文の中にも含めて、よりいっそう、考察を深めている。

平成 25 年度は、金は、平成 24 年度に訪問した韓国とアメリカにおける調査結果をまとめた。外国人の言語的支援状況とその支援を受けている外国人の言語状況についてである。韓国やアメリカに長期的に滞在する外国人に対して、公的支援の形でどのような言語支援が行われているかを資料から考察した。安田は、継続的に、近代以降の日本語に対する学問のあり方を問い直す作業を行った。寺尾は、昨年度に行った調査結果についてさらに考察を深めている。

平成 26 年度には、金は、アメリカに長期滞在をしてコミュニティに溶け込む形で考察を深めることとなった。また、その他のメンバーは、各自がこれまでに明らかになった点を統括し、業績としてまとめた。

欧米などでは、この 4 年間で「ethnolect (エスノレクト)」という用語は研究論文などにおいて多数見られるようになったといえる。論稿などでは「immigrant (移民)」という用語と共に論じられることが多く、国家・地域が多民族化・多様化するのに従い、その存在がより強く意識されるようになっていくことがわかった。但し、「エスノレクト」という用語の日本への紹介的役割につい

ては、まだまだ不十分であったと言わざるをえない。

(2) について

平成 23 年度は、通時的分析を担う安田が台湾の場合について研究を深めた。また、金は、在日コリアンの中でも特に女性に着目して言語使用について考察を行った。

平成 24 年度は、藤井が、ホスト社会側の意識を知るために、日本の中の一地方都市である宮崎の若年層に対してアンケート調査を行った。内容は外国人が話す日本語に対する意識を調べるというものである。アンケートの作成にあたっては、中国人・韓国人に対しての反応と、欧米系の言語を母語とする話者への反応とを分けて調べた。両者に対する反応には差のあることがわかった。

平成 25 年度には、藤井が平成 24 年度に実施した、外国人が話す日本語に対する意識調査の結果について、継続的に考察を行った。

平成 26 年度は、各自がこれまでに明らかになった点を統括し、業績としてまとめた。(平成 27 年度以降に発表予定のものもある。)

日本社会は、現在、多言語化が進展している。そうした中でも、外国人も含め、多くの人々が日本語には高い規範性があると考えており、「言語の多様性」は容認したとしても、そこに「日本語の多種性」を共存させることは難しい。しかし、方言使用の広がりや、国内外における日本語教育の拡大、また、訪日外国人の増加などで、「国語」とイコールではない「日本語」には多様性があることも徐々に認知されつつあることが明らかにできた。

「エスノレクト」はエスニシティと結びつくものであるが、日本語の多様性、という観点からは、近年注目されている「やさしい日本語」からも何らかの示唆を得ることが可能であると考えられる。今後はこの点からも考察を進めてみたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

安田敏朗、「昭和文字」をつくった男 米田宇一郎と「救国補字」の射程、言語社会、査読有、9号、2015、198-214

安田敏朗、多言語主義の過去と現在 近代日本の場合、立命館言語文化研究、査読有、26巻2号、2014、3-20

藤井久美子、言語景観から考える観光と多言語状況、宮崎大学教育文化学部紀要・人文科学、査読無、29・30号、2014、33-42

安田敏朗、コメント：方言・ルビ・バイリンガリズム、立命館言語文化研究、査読有、25巻2号、2014、147-156

寺尾智史、文化的多様性を担保する新たな領域性(テリトリアリティ)としての流域圏：加古川流域に探る可能性、人間・環境学、査読有、22号、2013、137-150

〔学会発表〕(計 2 件)

金美善、ピョンヤンの言語景観、多言語化現象研究会第49回研究会、2013年7月13日、大阪大学言語文化研究科(大阪府・豊中市)

安田敏朗、近代移行期における日本語学の成立、ワークショップ「近代移行期における東アジアの自国語認識と自国語学の成立」、2012年11月29日、仁川市(大韓民国)

〔図書〕(計 3 件)

寺尾智史、彩流社、欧州周縁の言語マイノリティと東アジア、2014、267

砂野幸稔(編著者)、佐野直子、寺尾智史、他計23名、三元社、多言語主義再考 多言語状況の比較研究、2012、756(84-117)

安田敏朗、三元社、日本語学のまなざし、2012、164

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 久美子(FUJII, Kumiko)
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：60304044

(2) 研究分担者

安田 敏朗(YASUDA, Toshiaki)
一橋大学・大学院言語社会研究科・准教授
研究者番号：80283670

(3) 研究分担者

寺尾 智史(TERA0, Satoshi)
神戸大学・国際文化学研究科・協力研究員
研究者番号：30457030

(4) 連携研究者

金美善(KIM, Miseon)
国立民族学博物館・研究員
研究者番号：50469623